

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和４年度採択）

事後評価（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
2022-3	統計的アセットマネジメント手法に基づくバックキャスト型道路政策の深化についての技術研究開発	大阪大学大学院 教授 貝戸 清之	B
<研究の概要> アセットマネジメントを高度化させ、アセットマネジメントと 1)劣化属性情報、2)EBPM、3)リスクマネジメントとの融合により、それぞれバックキャスト型道路政策を支援・深化させるための方法論を開発する。 <事後評価結果> ・設定された5つの研究項目に対して方法論の開発と事例の適用を行っており、一定の成果が得られている。 ・一方、得られた成果を実務や施策の改善につなげるためには、モデルの精度向上や現場技術者が理解できる情報への変換など実務への導入に向けた検討が必要と考えられる。 ・このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。 <参考意見> ・開発された方法論は理論的には完成されている。今後の実装研究に期待する。また、現場技術者が理解できる情報への変換が期待される。また、補修優先順位を決定する際に参照すべきパラメータの特定およびその組み合わせの優先順位決定時に、例えば4象限に明瞭に決定できないと考えるので、実装方法の検討にも期待する。そのことが EBPM の推進にもつながると考える。 ・当初の目的・目標に適った成果が得られたものと評価する。今後、モデルの精度向上や実践での適用による効果検証に期待する。また、SIP 第3期でも課題解決や社会実装に向けた取り組みが継続されているので今後の成果に期待したい。 ・今回は過去点検データの分析により一定の方向を示すものであり、補修箇所も劣化予測のデータとして推定する統計的手法は、画期的と思われる。ただし、実際の道路政策上では本件の分析外の事象や劣化影響要因があると思われる。今回の知見から、より精度向上につながる点検の在り方や点検記録方法を整備する事によって、この技術が更なるライフサイクルコストの最小化につながることを期待する。 ・劣化や健全性は長い時間軸でみるので、その中で予測や評価の結果の妥当性をどう検証するのか、予測や評価法だけでなくその検証法にも道筋があると、実務への展開が拓けると思う。 ・今回得られた知見をどのように道路管理・マネジメントの実務や施策に反映し、改善につなげていくかが明確でないため、道路管理者との連携等を進めつつ、実務への反映に向けた研究の進展を期待する。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 50 回新道路技術会議において審議したものである。